

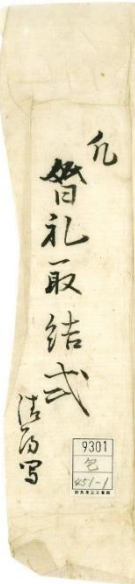
②③ 婚礼取結式 (神前にて)

明治4年 (1871) 11月

婚姻儀礼のなかでも、最も厳粛に執り行われるものが「トリムスビ (取結)」で、その中心的な儀礼が「三々九度の盃」です。この史料は、その手順を詳細に記したものです。神前に供えた酒を女蝶めちよう男蝶おちようをつけた銚子ちようしに移すところからはじまり、嶋臺しまだいなどの儀式に用いる物品や参加者の配置、具体的な盃事さかずきごとの進行次第が順を追って記されています。

吉田允俊家文書 P9301 No.451-1

(桐生市本町)



凡  
婚礼取結式

一先神前江御神酒を備置、女蝶(めちよう)  
男蝶(おちよう)の銚子ちようし二御酒を入、神前江  
嶋臺しまだいの銚子ちようしに御酒を入、長熨斗(ながのし)  
盃取結肴 餅吸物 嫁者よめ斗と  
一嫁者座付 嫁者右 婿むこ左  
一取結人 嫁者左 婿右  
一第一ノ盃 双方二づき、丁付してのませ、  
吸物のふたを取、丁付して都合三度  
双方の盃前二置、盃入かへ又一ノ盃  
嫁者二づき、尤此時搦の子供双方へ  
入かへ搦をさせ丁付して取肴を取

【②③】 婚礼取結式 (神前にて)

〔釈文〕

(包紙)

凡  
婚礼取結式  
清一郎写

婚礼取結式

一先神前江御神酒を備置、女蝶(めちよう)  
男蝶(おちよう)の銚子ちようし二御酒を入、神前江  
嶋臺しまだい取結座敷江置 長熨斗(ながのし)  
盃取結肴 餅吸物 但し是は 嫁者斗よめと也  
一嫁者座付 嫁者右 婿むこ左  
一取結人 嫁者左 婿右  
一第一ノ盃 双方二づき、丁付してのませ、  
吸物のふたを取、丁付して都合三度  
双方の盃前二置、盃入かへ又一ノ盃  
嫁者二づき、尤此時搦の子供双方へ  
入かへ搦をさせ丁付して取肴を取

謡 処は高砂 丁付して此盃  
あこま 盃二ノ盃よりて双方へ

一 才テ盃又扱のみ供入又双方へ  
つぎ丁付して結着をとる

謡 四海浪 盃丁付して  
盃あこませ 三ノ盃にして又扱の  
み供入へ

一 才三ノ盃双方につぎ丁付して  
結着をとる 嫁聲の盃

謡 千秋楽  
舞 舞子酒つぐ事  
丁付共三度也

此盃の何を扱井神江  
上納也

明治四年  
未霜月吉辰

右 猪垣清一郎  
しるす

謡 処は高砂 丁付して此盃  
あこまの何をいふかも  
三ノ盃の盃よりて双方へ  
つぎ丁付して結着をとる

謡 処は高砂 丁付して此盃  
前二置、第二ノ盃にして双方へ  
一 第二ノ盃又扱の子供入かへ双方二  
つぎ丁付して結着を取

謡 四海浪 盃丁付して  
盃前二よせ 三ノ盃にして又扱の  
子供入かへ

一 第三ノ盃双方二つぎ丁付して  
結着を取 嫁聲の盃いづばい  
つぎ置

謡 千秋楽  
此盃の酒、翌朝井神江  
上納也

明治四年  
未霜月吉辰

右 猪垣清一郎  
しるす  
右應翰二四号

謡と八何をいふかも  
しら浪のよする 汀に  
鶴と亀かや 評所大酔吟